

建築士の日 7/1

戦前「日本第一の美しい都市」と柳 宗悦(むねよし)(民藝運動の提唱者)に絶賛された古都首里。沖縄戦で街並みは崩壊したものの、1992年に復元された首里城を中心に「古都首里の再生を」と建築士や地元の人たちが協力。首里らしい景観に向けて活動を広げている。



龍潭の向こうに首里城が見える。龍潭通り沿いは景観条例によって、赤瓦を載せること、ベージュやアイボリーなど淡い色調を用いること、道路からの後退、高さ制限などが定められている。全体の雰囲気がまとまっているため、落ち着いた街並みが広がっている

「古都首里」再現へ

1429年から1879年までの450年間、琉球王国の王都として栄えた首里。石畳道や石垣、史跡など、歴史を感じられる場所が点在している。

(社)沖縄県建築士会首里支部の伊良波朝義さん((有)義空間設計工房代表)は「首里は、脈々と続く(人々の)息づかいが感じられるまち。住んでいる人も首里に誇りを持っている人が多く、『清(ちゆ)ら島』という言葉が、街なみにも人にも当てはまるように感じる」とその魅力を話す。

平成17年「首里らしい風景づくりを」と、伊良波さんら建築士や地元の人たちが参加し、NPO法人首里まちづくり研究会を設立した。その前身として建築士会首里支部内に「まちづくり委員会」があったが、「もっと地元の人との連携を深めて、地元の声をまちづくりに生かしたい」とNPO設立に至った。現在メンバーは35人ほど。年代は20代から80代まで幅広く、不動産や飲食業、ライターなど職種も多様。



「首里まちづくり研究会」の伊良波朝義さん(右)と山城岩夫さん(左)

つながりをつくる

研究会の山城岩夫事務局長兼理事は「わたし自身、平成10年から正月に若水を献上する伝統行事に力を入れてきました。首里には、活動している団体がたくさんある。いろんな人たちとつながっていけたら」とその意義を説明する。研究会ではこれまでに、「龍潭通り風景づくり構想の案」づくりや、町の見どころを4カ国語で記した遊覧説明版の整備、「まちめぐるマップ」の作成など、さまざまな活動を続けている。

伊良波さんは「説明版では地元の人から情報をもらって、デザインや色を提案しました。関わる人も集まる機会も

増えて、できることが広がりました」と振り返る。



龍潭通り。歩道は琉球石灰岩を布張りにし、車止めも金属ではなく琉球石灰岩を用いている。素材や張り方などは行政と相談、調整を重ねた



戦火を逃れ、残った金城町の石畳道。石垣や民家の瓦屋根と相まって古都首里の雰囲気（ほうふつ）とさせる。観光スポットとして、観光客も多く訪れている

多分野つながり

街づくりを点から面へ

研究会の最近の大きな活動は、昨年国土交通省が実施した「住まい・まちづくり担い手事業」に「古都首里の風景のあるまちづくりの調査研究」を提案し選ばれたこと。ベースとなっているものは、「古都再生」を図り県が1984年に作成した「首里杜構想」だ。山城さんは「首里杜構想では首里城を中心に街並みや道、眺めを保存、復元、整備し首里のまちづくりを推し進める方向性が掲げられています。約30年たっているが首里城に整備が集中しているのが現状。首里は昔、庭園と寺の多い庭園都市だったんです。豊かな街並みを点でなく線、面にしていきたい」と語る。

思いを形に変える

研究会では首里地区の120史跡を調査・研究。地元の人たちを対象にワークショップを開き「中山門跡」や「御茶屋御殿」など選出した6カ所のまちづくり構想のイメージCG（コンピューターグラフィックス）を作った。豊かな緑や石垣、風格ある建物が再現されたCGは「もしも史跡が残っていたら…」というイメージを膨らませてくれる。

伊良波さんは「言葉ではなかなか伝わらないが、CGにすることで一般の人にイメージが伝わりやすくなったかと思う。『こうしたい』という地元の人たちの思いを、形やデザインに落とし込んで行政に伝えるのが建築士の役割。今まで文化や街並みを継承してきた先人たちの思いを汲み、50年先、100年先のことを考えて街づくりに関わりたい」とこれからの展望を述べた。

活動は琉球大学の高良倉吉教授が監修。派遣専門家として沖縄県建築士会や日本建築学会に協力を仰ぎ、建築士やランドスケープの専門家も参加した。

それぞれの専門性や強みを生かし協力することで、より魅力的な景観づくりを進めている首里。その取り組みには、ほかの地域にも参考になる部分がありそうだ。

CGでイメージしやすく

研究会では首里地区の歴史・文化遺産120件の資料収集や現地調査などを実施しデータベースを作成。その後調査を踏まえて6カ所を選びCGを作成した。CGは同研究会のパンフレットやホームページで見られる。

古都首里のまちづくり構想マップ

多くの史跡が点在する首里。小さな道を散策すると思わぬ風景が広がっていることも。



中城御殿跡。古郡を再現したイメージCG(上データ)と現状(右写真)。写真・資料協力＝首里まちづくり研究会



取材記事・編集／栄野川里奈子

[タイムス住宅新聞社HP](#) | [沖縄じゅなび](#) | [週刊タイムス住宅新聞](#) | [週刊ほ〜むぶらざ](#) | [旬刊宅建情報](#) | [タイムス住宅新聞社ブログ](#)

建築士の日 7月1日(2012年)

(株)タイムス住宅新聞社・週刊「ほ〜むぶらざ」編集部
画像及び文章の無断転載・無断引用・販売などは固くお断りします。
Unauthorized redistribution of my data is strictly prohibited